



巻頭言



宗教部長  
野村 信

旧約聖書における「命、光、愛」

暑かった夏も終わり、実りの秋を楽しみ、冬の季節を迎える時となりました。こうして一年が終わり、また新しい一年がやってきます。このことは自然の四季についてだけ言えることではありません。万物は、誕生、成長、実り、終わりのサイクルを繰り返しながら進んでいます。

このサイクルは、紀元前六世紀のギリシアのヘラクレイトスが万物流転(パンタ・レイ)を語り、同じころ、仏陀が諸行無常を説いたことにも通じるでしょう。すでに先人たちが、世界を観察し、万物の動きを捉えています。興味深いところですが、今回は、この話には立ち入らず、万物にこのような調和と秩序を与えて下さった神さまの働きを讃美している旧約聖書の言葉に耳を傾けましょう。詩編第三六章六節以下の御言葉です。

主よ、あなたの慈しみは天に  
あなたの真実は大空に満ちている。  
恵みの御業は神の山々のよう  
あなたの裁きは大きな深淵。  
主よ、あなたは人をも獣をも救われる。

天に満ちている「慈しみ」や大空に満ちている「真実」とは何を指すのでしょうか。それは、世界をこのような調和と秩序に従って創り、私たちをそこに置いて下さった神さまの深い御計画と言えます。しかも地上に生まれても、いずれ死に行く人間や動物を救ってくださる神さまの、大いなる恵み、すなわち愛を指しています。

ヘブライ語の「慈しみ」とは、そのまま「愛」と言い換えることができます。世界は、このような神さまの愛によって創られ、人間に地上に生きるように命が備えられています。それに気づくと、私たちは讃美せざるを得ません。いわく、

命の泉はあなたにあり  
あなたの光に、私たちは光を見る

(二〇節)。

「命」の源は神さまのもとにあり、それによって万物が生かされ、同時にそれは永遠の「光」として輝き、その光が世界に満ち、その光を通して私たちも神さまの光を仰ぎ見ることが出来ます。

こうしてみると、ここには「愛」と「命」と「光」という言葉があることに気付かされますが、これは、本学の建学の精神である「Life, Light, Love」の3L精神に関わる旧約聖書の言葉でもあります。新約聖書ではヨハネによる福音書とヨハネの手紙が3Lを高らかに語っていますが、旧約聖書では、詩編などに見られる言葉です。「3L精神」は、聖書全体の教えでもあり、本学で学ぶ私たちがしっかりと心に刻みたい言葉です。



第二回

「3L精神」の源流を探る

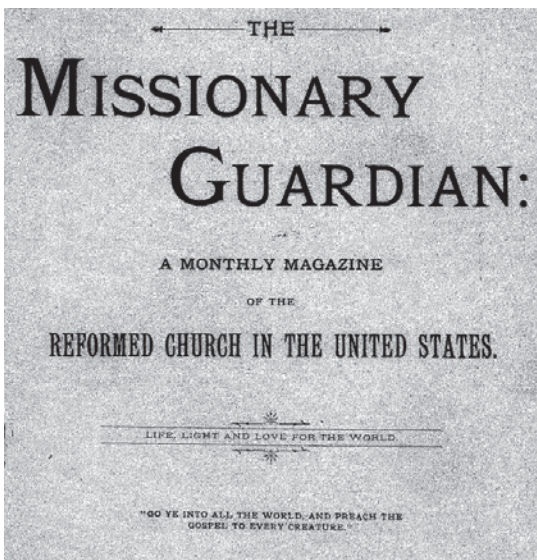
昨年の秋号(第百四二号)で、米国改革派教会(旧・ドイツ改革派教会)から、二人の宣教師が来仙し、東北学院の礎を築いたことを述べました。当時の宣教師の世界各地へ向かう意欲を駆り立てた言葉は、3Lと呼ばれるスローガンでした。それは今日、本学の建学の精神となっています。今回は、この夏に米国へ再度行って、この3Lが人々の口の上るようになった背景を探る作業をしてきましたので、それをお話しします。

3Lとは、「Life (命)」「Light (光)」「Love (愛)」の頭文字を取った言葉ですが、これに「世界のために」という句がついて、「Life, Light and Love for the World」となります。この用語は、米国改革派教会の The Missionary Guardian という伝道を集めた雑誌の表紙に掲載されたものです。これが、一九二二年に中学校の新校舎の正面に掲げられ、それ以来、

東北学院は、この言葉を建学の精神として学校教育を続けてきました。

では、この用語はなぜ The Missionary Guardian の表紙に掲載されることになったのでしょうか。米国改革派教会で当時どのようこの用語が受けとめられていたかが気になります。

二人の宣教師の母校であるランカスター神学校の古文書保管所で調べた結果分かったことは、The Missionary Guardian は、一八九一年一月から一八九六年七月まで、ほぼ六年に亘り出版された月刊雑誌で、全部で六七号に達しました。米国改革派教会は、それまで The Guardian という月刊誌を一八五〇年の一月から四〇年という長い期間に亘って発行してきましたが、一八九〇年一二月の号をもって終り、The Missionary Guardian という名



称の雑誌を新たに刊行することを決定したのです。この表紙のデザインは、最初の号から最後の号まで全く変化がなかったのですが、その表紙は一貫して3Lの標語を掲載しています(図参照)。

ところで、この言葉が米国改革派教会の人々の中でそれほど広がったのは、なぜかというところ、それは、宣教に出かけた国々の様子を見ると貧困が広がり、社会的にも困難な状況にある人々が多かったことが繰り返し報告されています。また口調が良いということも一因しています。

キリスト「命」の幸いな教えを告げ、暗い世界にキリストの明るい「光」が差し込む喜びを覚え、何よりもキリストの深い「愛」によって生きる嬉しさを分かち合うことは、まさしく当時の人々の宣教へ向かう熱意をこの用語が代表しているとと言えるでしょう。なお詳細は次の機会に紹介します。

(執筆 野村 信)



「3L精神」が刻まれた旧中学校校舎正面(1922年)(本学のHPより)

# Campus messages

各キャンパス担当の先生たちからのご挨拶

## 泉キャンパス

大学宗教主任 吉田 新



人生時間というのをご存知でしょうか。私たちの人生を一日の時間に置き換えてみることで。年齢を3で割った数字がその人の人生時間です。午前0時から始まり、9歳でしたら午前3時。皆さんのように20歳前後ならば、午前6時から7時。一日が始まるうとする頃です。一日の中でもっとも集中力があり、体力があるのが午前中です。午前中の数時間は皆さんの人生の午後を決める大切な時です。私はたとえば、13時をまわってしまい、もう人生の午前中は過ぎていました。聖書は次のように語っています。「生涯の日を正しく数えるように教えてください。知恵ある心を得ることが出来ますように。」(詩篇90編12節) 人生の日々を無駄に過ごさないように、自分に残された日々(時間)を数える。それが知恵ある心であるという教えです。この言葉を胸に留め、これからの一日を過ごしたいと思います。

## 土樋キャンパス

大学宗教主任 田島 卓



最近、『天気の子』という映画を観てきました。そのなかで、代々木駅のそばにある小さな廃ビルの屋上に、やはり小さな社あって、それが物語のひとつの鍵になっているのですが、都市部のなかに、このような不思議な聖域があることがどうにも印象に残っています。

こういった劇的な物語のなかだけでなく、実は、街の中にある普通の教会もまた、ドラマのなかに劣らず、聖なる領域であると思うのです。大学生の頃、その大学の礼拝堂はたいいてい開放されていたのですが、誰もいない礼拝堂のなかに入って黙想することが好きでした。そこには、世俗とは別の時間が流れており、世俗とは別の空間があります。

「疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう。」(マタイ11:28)というイエスの言葉があります。礼拝、教会とはそのような場であり、すべての人が招かれているのです。

## 多賀城キャンパス

大学宗教主任 原田 浩司



厳しい暑さも和らぎ、それぞれこの夏休みで英気を養い、後期の学生生活を再開したことでしよう。一年生は「キリスト教の歴史と思想」、三年生は「キリスト教学A(倫理)・B(宗教)」の講義も始まりました。教室での学びのない二年生、四年生の学生諸君も是非、大学礼拝に足を運んでください。

工学部の皆さんにとっては、来るべき「就活」という名の市場で自分が売れ残らないようにすべく、自分の「市場価値」を高めるために、教養と経験を積み、技術を磨き、資格を取り、そして日々努力を重ねて、自分を向上させることも大切な課題でしょう。しかし、立ち止まって考えて欲しいのです。あなたがこの世界で生きる本当の価値はどこにあるのかを。それを考えさせ、気づかせてくれるのが聖書です。

学院大での1時限目と2時限目の間の30分は礼拝のために聖別された貴重な時間です。この礼拝を通し、目には見えない霊的成長の収穫が皆さんに与えられますように。

# 聖書の学び会の様子



## (聖書研究会)

誰でも参加できます！

泉

### 阿久戸 義愛 先生のグループ

写真は聖研のメンバーで、サマーカレッジで歌う「ゴスペル」を練習している光景です。「ゴスペルは「福音」の意。福音のことはを歌に乗せ、讚美の歌として神様に捧げます。「イエスを通して賛美のいけにえ、すなわち御名をたたえる唇の実を、絶えず神に献げましょう。……このようないけにえこそ、神はお喜びになるのです。」(ヘブ13:15)共に聖書のことばを味わい、讚美として神様へ霊的な捧げ物をしたいと思います。



土 樋

### 鐸木 道剛 先生のグループ

現在4名の参加で『詩篇』を最初から読んでいます。「詩篇』は個別には礼拝で読むこともしばしばありますが、同じようなことが書いてあるようにしか見えません。なぜ一五〇編もあるのでしょうか。ダビデは動物の弱肉強食の世界ではなく、神の正義を求めています。つまり動物的生活ではなく、超越を知って現実を相対化することに気づいた人間の言葉と読めば、一挙に面白くなります。ぼちぼち読んでいます。どうぞご参加ください。





学院大夏の風物詩

「サマーカレッジ  
2019」  
現地レポート



大学宗教主任  
田島 卓

2019年8月5日から6日にかけて、第45回サマーカレッジが開催されました。1年生が16名、2年生が5名、3年生1名、4年生1名と、学年・学科を超えて例年よりも多くの参加者に恵まれました。

1日目の開会礼拝では、4年生の藤江惟志さんが、マタイ5章13・16節「地の塩、世の光」という題でお話してくださいました。その後、赤井慧先生(尚絅学院中学校・高等学校聖書科)から「キリスト教と怒り」、「地の塩・世の光」として生きる」としてご講演をいただきました。「怒る」や「憤る」という言葉について、新共同訳聖書での用例を見ていく

と旧約では566回、新約では63回と、とくに新約聖書では「怒り」に関する言及が少ないことに気付かれますが、同時に、イエスは必要なお怒りになられていたことがわかります(マタイ21:12-17、マルコ3:1-6、マルコ10:13-16、ヨハネ11:28-44)。赤井先生のご講演は、怒りという感情がいわば氷山の一角に過ぎず、その根底には不安や苦しき、悲しさなどの強い一次感情が潜んでいることを示してくださいました。

1日目午後はアクティブリゾーツ宮城蔵王に場所を移し、オタマリレーなどのレクリエーションや、テーマ別懇談で交わりを深めることができました。証では、渡邊彬さん(経済2年)がお話しくださり、残念ながら急遽欠席となった茂泉はなさん(総合人文4年)の文章が代読されました。讚美の時と夕べの祈りの時間には、木村純二先生のキーボード伴奏で普段の大学礼拝では歌われないコンテンツポラリーな讚美歌を歌い、先生の前任地である弘前での開拓伝道の様子が紹介され、強い印象を受けました。

2日目は松村七海さん(地域構想1年)に朝の祈りをご担当いただいたあと、赤井先生に1日目に引き続きお話をいただきました。ノーベル平和賞受賞者のカイラシユ・サティアーアティ氏のスピーチを見て、怒りのエネルギーをいかに社会正義の実現に結びつ

けるかということを考えさせられました。野村信先生が出エジプト記1:22-2:10から、「怒る王、憐れむ王女」という題で閉会礼拝を執り行ってくださいした後、午後には、蔵王酪農センターでのソーセージ作り体験も行うことができ、充実のうちに全日程を終えることができました。

2日目の途中にはさらに別の出張があるというご多忙の中、講師を引き受けてくださった赤井先生、裏方で支えてくださった職員の方々に深く感謝を申し上げます。



「見ないのに  
信じる幸い」

日本基督教団  
青山協会 主任担当教師  
ますだ しょうへい  
増田 将平

れほど恐ろしいことはありません。

ところが戸に鍵がかかっていたのにイエスが来て言われます。「あなたがたと私の間には平和がある。だから、もう何も恐れることはない」そしてトマスのところへ近づきトマスの言葉通りに両手とわきの傷を示されました。トマスを決したためではありません。トマスへの愛を信じてほしいからです。自ら進んで傷を示すイエスの姿から、聞こえてきた言葉がありました。「私のこの傷ゆえに、私の十字架の死のゆえに、あなたは赦されている。」

そのことがわかって、トマスは言いました。「わたしの主、わたしの神よ」主イエスの傷跡はトマスへの、私どもへの愛のしるしです。トマスは復活した主イエスの傷跡を見て、何が一番確かなことであるかわかりました。それまでは自分の目、自分の手によって確かめられることが真実であると考えていました。しかし、復活した主イエスの愛を信じていることが何よりも確かであることがわかったのです。

科学者でありキリスト者であったパッセは復活について言いました。「生前イエスが弟子たちと共にいた時は、イエス自身が彼らの支えとなった。しかし、イエスが十字架につけられた後は、

復活したイエスが彼らの前に現れたのでなければ、弟子たちをあのように動かせるだけの人がいただろうか。」

トマスはその後インドで伝道したと言われています。海を越えてこの国に来て東北学院を設立した人々がいました。これは不思議なことで奇跡とも言えます。なぜでしょうか。復活して今も生きておられるキリストと出会うことができるところがあります。トマスが復活したキリストと出会った時、仲間たちと一緒にいました。それが教会です。教会は目で見えないけれども信じ、喜びを与えられて生きている人々の集まりです。教会の真ん中に手と脇腹に傷を持ったお方がいつも立ってくださっており、願う人は誰でもこの方とお会いすることができのです。

主イエスは言われます。「見ないで信じる人は幸いである」

これは条件ではありません。宣言、それも祝福の宣言です。あなたも見ないで信じてことができます。主イエスがあなたのところにも来てくださっているからです。

## ◆増田 将平氏

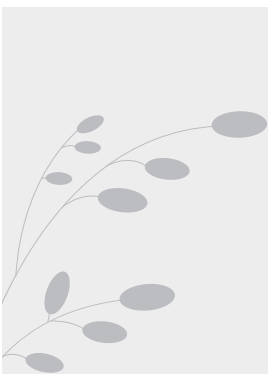
一九七（昭和46）年十二月生まれ  
（東京都出身）

## 学歴

一九九四（平成6）年三月 東京神学大  
学 神学部神学科 卒業  
一九九六（平成8）年十月 英国、  
Glasgow Bible College 卒業  
一九九七（平成9）年七月  
右に同じ 卒業

## 職歴

一九九八（平成10）年四月 日本基督教団  
藤枝教会 主任担当教師 就任  
二〇〇〇（平成12）年四月 日本基督教団  
柏教会 主任担当教師 就任  
二〇〇二（平成14）年四月 日本基督教団  
青山教会 主任担当教師 就任  
「現在に至る」  
二〇〇六（平成18）年四月 頌栄女子学  
院 講師 着任  
「現在に至る」  
二〇一七（平成29）年四月 青山学院高  
等部 非常勤講師 着任  
「現在に至る」



# 「注がれる まなざしの下で」



日本基督教団  
宇都宮教会 主任担当教師  
木村 太郎  
きむら たろう

自由に振る舞えないということもあり  
ます。

しかし、この「わたし」は、神さまのま  
なざしが、自分が世に誕生する前からこ  
の自分自身に注がれていたということ  
に喜び、感謝しています。17、18節で  
こう言われるからです。「あなたの御計  
らいは／わたしにとっていかに貴いこ  
とか。神よ、いかにそれは数多いことか。  
数えようとしても、砂の粒より多く／  
その果てを極めたと思っても／わたし  
はなお、あなたの中にいる。」

自らに注がれている神さまのまなざ  
しがあることを確信し、その下で自分  
は生かされていると信じるとき、私た  
ちは本当に自由になることができます。

神さまのまなざしは、神さまと私たち  
を繋ぐ命綱です。クライミングをする  
人が、命綱があることによって自由自  
在に、恐れなく目の前の急峻な壁を登っ  
ていけるように、私たちもその命綱に  
よって恐れなく自由に生きることがで  
きるのです。

それでは一体、命綱としての神さまの  
まなざしとは、具体的には何でしょう  
か。それは、主イエス・キリストとい  
う方です。神さまは、キリストという命  
綱を私たちに与えてくださったのです。  
ヨハネの手紙一4章9節に、「神は、独

り子を世にお遣わしになりました。その  
方によって、わたしたちが生きるよう  
になるためです」とあるように、神さま  
は、私たちがキリストという命綱によっ  
て生きることを望まれました。

時に、私たちは命綱なしでもやってい  
けると思うのです。時に、神さまのま  
なざしの下で生きることが不自由であり、  
窮屈であると思うのです。キリストは、  
神さまとそのような私たちの間に入り、  
十字架という苦難を背負い、自らの命を  
犠牲にして、私たち一人ひとりを神さ  
まへとしっかり結びつける命綱となっ  
てくださいました。

皆さん一人ひとりを、生まれる前から  
見つめ、キリストという命綱を通して、  
しっかり捕らえてくださっている方が  
おられます。その方の下、恐ることな  
く本当の自由の歩みへと導かれますよ  
うに、心よりお祈りいたします。

## ◆木村 太郎氏

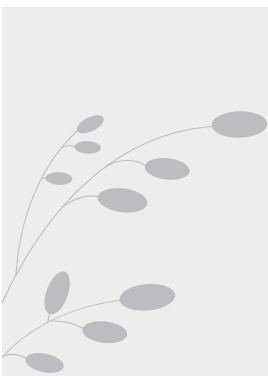
一九七四(昭和49)年七月生まれ  
(福島県出身)

### 学歴

一九九七(平成9)年三月  
東京神学大学 卒業  
一九九九(平成11)年三月  
東京神学大学大学院 修了  
二〇〇四(平成16)年一月 リージエン  
ト・カレッジ(カナダ、フリティッ  
シュコロンビア州) 留学  
二〇〇七(平成19)年四月 同右  
修士課程 修了

### 職歴

一九九九年(平成11)年四月 日本基督教団  
南国教会(高知県南国市) 主任担当教  
師 就任  
二〇〇一(平成13)年三月 同右 辞任  
二〇〇七(平成19)年四月 日本基督教  
団 宇都宮教会(栃木県宇都宮市)  
主任担当教師 就任  
(現在に至る)



# 秋の行事と

## 予告



実りの秋を迎え、続いてクリスマスを迎える季節が近づいてきました。今後の幾つかの行事についてお知らせします。

年に2回、特別伝道礼拝を行います。春は教会に仕える牧師の先生方をお招きして聖書のお話を聞き、秋は社会で活躍している方々からお話を伺います。今秋の予定です。

### 1 秋季特別伝道礼拝のお知らせ

泉  
キャンパス  
礼拝堂

10月9日(水)  
10時10分～11時00分  
説教者 田中文宏氏  
(日本基督教団 名古屋桜山教会)

多賀城  
キャンパス  
礼拝堂

10月9日(水)  
10時10分～11時00分  
説教者 柳谷雄介氏  
(日本基督教団 新生釜石教会)

土樋  
キャンパス  
礼拝堂

10月10日(木)  
10時10分～11時00分  
説教者 田中文宏氏  
(日本基督教団 名古屋桜山教会)

### 2 宗教改革記念日

(10月31日)

ドイツのヴィットテンベルク大学の聖書学の教授であつたマルティン・ルターは、1517年10月31日に免罪符の販売などに関する公開質問状(九十五箇条の論題)を聖堂の門に張り出しました。これがきっかけとなつて宗教改革が各地に広がり、プロテスタントと呼ばれるキリスト教の新しい教会の群れが誕生しました。私たちの東北学院はこのプロテスタント(福音主義、新教とも呼ばれる)教会の集まりに属しています。当日は大学礼拝やキリスト教で、この記念日の意義について触れることと思います。

### 3 収穫感謝日

(11月第四木曜日)

この季節に世界の各地で秋の収穫のお祭りが行われますが、キリスト教では、特に米国とカナダで盛大に祝われます。その起源は、1620年にさかのぼりますが、メイフラワー号に乗つて新天地を求めた旅立つた清教徒たちはアメリカ東海岸に上陸しました。しかし移住者の半数が失われるほど過酷な時を過ごし、翌年の秋に収穫が与えられて生き延びることができました。これを記念してお祭りを行っています。秋の実りを感謝すると同時に、神に養われていることを覚え、感謝する日です。

### 4 待降節

(アドベント)

イエス・キリストの誕生を祝うクリスマス(12月25日)の前の四週間を「待降節」と呼び、その最初の日曜日待降節第一主日と定め、教会の暦は始まります。キリストの誕生を暗い世界に光が誕生したと聖書では理解するので(イザヤ9:1、ヨハネ1:5)、夜の長いこの時期に光なるキリストが到来したことを祝うのは、時季になつて嬉しいものです。家屋や街路にイルミネーションを飾るといふ習慣は日本全国に定着しました。大学の諸行事は下記を参照してください。

### 編集後記

今年には改元があり、平成から令和へと元号が変わりました。昭和から平成への改元は天皇の死去によるもので、自粛ムードが強かったのに対し、今回は生前退位での改元で、国内はお祝いムードに満ちていました。平成は東日本大震災をはじめ災害の多い時代でしたが、そのたびに被災地を慰問した上皇夫妻には国民から感謝と敬意が寄せられています。同時に「絆やおもてなし」など日本人の精神性や美德というものが、再生産されて語られたのも平成という時代でした。キリスト教学校として、身内や民族という範囲にとどまらない隣人愛を今の日本の社会でどう伝えてゆけばよいか、改めて考えさせられるこの頃です。

二〇一九年九月三〇日

東北学院大学宗教部

編集者 木村 純二

〒九八〇-八五二一 仙台市青葉区土樋一丁目三番一

### クリスマス礼拝のご案内

宗教部よりお知らせ

#### 大学クリスマス

多賀城 キャンパス	土樋 キャンパス	泉 キャンパス
12月13日(金) 10時25分～12時25分	12月12日(木) 15時～17時	12月12日(木) 10時25分～12時25分
説教者 棚村 重行 氏 (東京神学大学名誉教授、特任教授)		
合唱団によるメサイアの演奏		

#### 泉公開 クリスマス

12月7日(金)  
18時30分～20時00分  
説教者 瀬谷 寛氏  
(日本基督教団 仙台東一番丁教会)